加納伊都後援会 TRAUBEN ニュースレター

STRUM シュトゥルム

第 34 号 平成 29 年 1 月 12 日発行

2017 年の幕開けから早や１０日あまりが過ぎましたが、皆さまはどんなお正月をすごされたでしょうか。
アメリカ、イギリスはじめ波乱の世界情勢、こんな時こそ文化や芸術の交流は大切！と、微々たる力ですが、今年も元気に伊都さんを応援したい TRAUBEN です。皆様のご健康とご多幸を祈りつつ、今年もどうぞよろしくお願い致します！

国大附属中
記念式典

企業女性キャリア
勉強会

14th Ito Kanoh Violin Recital

近況報告

皆様の応援に支えられて 14 回目のリサイタルが無事成功に終わりましたこと、心より感謝申し上げます。特に今回は 30 分を超えるディープな大曲、プロコフィエフのヴァイオリンソナタ第 1 番をメインにプログラムを組んだのですが、その気合いが伝わったのか、退屈することなく曲にのめりこむことができたとたくさんの方に感想を頂けたことが何よりの嬉しく、今後も耳慣れないけれど、音楽の醍醐味がぎっしりつまった古典から近代まで様々な曲にトライしていきたいと思っています。
それと同時に、調査によると日本人の 90%が自分はクラシックコンサートとは無縁だと思っているとのこと、もちろんとっつきにくい要素は色々とありますが、時代を超えて受け継がれる曲たちは、きちんと構成された物語であり、時には美しい景色のように人を癒してくれ、また叱咤激励してくれる、あるいは思わぬ感情を呼び起こしてくれる起爆剤でもあり、そして見たこともない場所に連れて行ってくれる旅行記でもある、ヨーロッパでは週末教会にコンサートの案内看板があるとふらっと立ち寄ったり、小さなサロン等で身近にクラシック音楽を聞くことができる環境があります。昨年は、神奈川県立音楽堂で行われた母校横浜国大附属中学校の 70 周年記念式典で 1 時間ほど演奏をさせて頂き、中学生の食い入るような視線、また、ある企業の女性キャリアのための勉強会で演奏した際には、時間を超過して熱心に興味を示して頂き、食わず嫌いでなく、気軽にヴァイオリンの、肌に共鳴する生音にふれてもらえる機会を作っていくことができたら、15 年ぶりの日本滞在、私の海外生活が生かせる活動ができたらと新春祈願をしています。 【伊都】

第 14 回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

真冬の寒さが緩んだ 12 月 22 日、クリスマス三連休前夜のみなとみらいホールでのリサイタルは、名曲ベートーヴェン：ヴァイオリンソナタ第 5 番「春」で始まりました。前半はドヴォルジャーク、シューベルトと進み、後半のプロコフィエフに。伊都さんのプログラム解説によると、この曲は豊富な人生経験を味わった中年を過ぎてから演奏すべきと思っていたそうですが「様々な要素が含まれていること、多少青臭い演奏でも骨組みがしっかりと支えてくれるキャパシティーの広い作品であることに勇気を得、演奏することを決意しました。」とのこと。
また「彼の生まれ故郷ウクライナに滞在した際、独特に吹き荒れるけれども不快でない風の音に、プロコフィエフの情熱と憂鬱、曲中不思議に流れるメランコリックな旋律の秘密があるように感じました。」と伊都さん自身の体験に裏付けられた演奏であることもわかります。30 分もの長丁場、ピアニストの松尾久美さんと共に集中の途切れない見事な演奏でした。長年の海外生活は、作曲家の思いを肌で感じるというところでも、彼女達の音楽を豊かに彩っているのですね。
そして、リサイタルでの十八番！華やかで楽しい、サラサーテ：カルメン幻想曲。聴くたびに進化しているような気が…ますますパワーアップして会場を盛り上げ、最後には「ブラボー !!」の声も飛ぶほどでした。
日本滞在となった昨年は新たな出会いが増えたせいか、初めて来場されるお客様も多く、伊都さんの音楽に触れていただく良い機会になりました。

いとちゃんの クラシック講座 op.26

ウィーンの新年の幕開けといえば、元旦の昼、ウィーン楽友協会で行われるウィーンフィルのニューイヤーコンサートです。日本でもＮＨＫでライブ放送され、かなりメジャーな様子、ニューイヤーコンサートを聴きに行く旅行ツアーは１年前から満席だそうです。ウィーンの年末年始のイベントとしては､年の瀬にオペレッタ「こうもり」（ウィーンの貴族社会を舞台にしたコメディ）を見にいくこと、オーストリア第二の国歌「美しき青きドナウ」を踊りながら、聴きながら年越しをすること、元旦にニューイヤーコンサートを聴くことが外せない習慣です。

また１月後半からは舞踏会シーズンが始まり、有名な舞踏会がたくさん開催されるので（オペラ座の舞踏会には近隣の王室関係者、有名人、お金持ちが多く参加するので、皆で集まってテレビを見ながら有名人談義をするのも庶民の楽しみです）舞踏会用のドレスが、お店にずらっと並ぶ光景もウィーンならではでしょうか。

2017 年のニューイヤーコンサートは 35 歳の南米ベネズエラ出身若手指揮者、そして女性の多さ（少なくとも 10 人はいたでしょうか）の影響か、女性は入れない、オーストリア人優先の伝統をかたくなに守ってきたウィーンフィルもついに時代の波には逆らえなくなってきた様子が一目瞭然、ウィーンフィル独自の音も変わってきたように思えました。今後どのように変化していくのか目が離せません。 【伊都】

Ito = Solo Vol.2

1月 28日（土）Start 7：30 pm
(Door Open 7：00 pm)
At 横浜エアジン （横浜馬車道）
http://airegin.yokohama/

Charge：￥2500 U25￥1500
Contact：045-641-9191（エアジン）

メールマガジン始まります！

文芸思潮、エッセイ賞を受賞したこともあるヴァイオリニスト加納伊都が、2017 年１月より、毎月一度、演奏活動スケジュールと共に､ヴァイオリンのこと、音楽のこと、長年の海外生活にまつわる話など、お届けします。
ウィーン、ロンドン他、50 ヵ国近い滞在先で経験した、ちょっとおかしなこと、音楽だけでなく、通訳、翻訳経験による、又、医療、教育現場での体験、音楽家の日常など、一味違う様々なエピソードを楽しんで頂けます。

ご登録はこちらから http://itokanoh.com/form_mm/mm.html

郵送希望等はご相談ください
http://itokanoh.com/form_toiawase/contact_r.html 加納伊都リサイタルオフィス 045-622-6780

編集後記 毎年 12 月のリサイタルで配られるプログラム、老眼にはちょっとキツいほどびっしりと演奏曲の解説が、伊都さん本人の文章で書き綴られています。／作曲家の説明や作曲された時代背景、曲の構成などの解説のあと、より詳しいエピソードや、その曲を伊都さんがどう感じてどう演奏したいかが書かれ、これがとても面白い。／たぶん常連さんはこのプログラムを毎年楽しみにしているだろうし、初めて手に取る人は、その詳しさと、他では手に入らない興味深い情報に引き込まれることでしょう。／たくさんの知識や思いを持って曲を理解し、演奏だけでなく文章でも表現し、私たちに伝える…彼女はそれを 14 年も続けていて、たぶんこの先も続けていくことでしょう。 〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会ＴＲＡＵＢＥＮ
〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL ：０４５－６２２－６７８０
FAX：０４５－６２１－６４２３
Email：trauben@itokanoh.com
Homepage： itokanoh.com